

月曜日

12

きょうのみことば

使徒 2:17

ビジョンさがしプロジェクト

神様がなされることをあらかじめ知っているなら、がっかりすることはありません。いつも感謝して、喜んでいられることができるでしょう。神様は、いつでもあらかじめ知らせてくださろうとしています。神様があたえてくださる才能（タラント）を持って神の国を広げていくことに用いられることを願います。

神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

1. まずそなえるべきこと

レムナントは、神様が喜ばれる人柄をそろえなければなりません。他の人が見ても理解できる客観性、私が特別によくできる専門性、正確に判断できる事実性、偽りがない真実性、考えだけで止まらず、生活でなしとげていく実践性を正しくそろえなければなりません。

2. 神様から受けたビジョン

ビジョンは、私がむりに作るものではありません。神様がよろこばれるみこころに従って、各自に分けてくださったタラントを無視して、自分の欲のとおり生きるということは、愚かなことです。神様が私にくださった才能を発見して、それをビジョンとしてよく育てるのが賢いことです。

3. 私にくださったビジョン

神様がくださったビジョンをどのように見つけるのでしょうか。まず私にある問題の中で探してみましよう。石ころばかりの畑に隠された宝物のように、問題の中にビジョンが隠されています。神様のみことばと現場で祈りながら答えを少しずつ発見して行けば、真のビジョンを正確に見ることができます。

神様、私にぴったりのビジョンをあたえてくださることを感謝します。私にあたえてくださるビジョンを持って、神様に栄光をささげて、福音をつたえることにもっと用いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましよう。夜 9 時 RUTC のために祈りましよう



失敗者の道を行ったサウル王

心にねたみ、しっと、欲がいっぱいだったサウル王は、失敗者の道を行った代表的な人です。一生の間、努力したのですが、福音を知らず、自分だけではなく、子どもたちや周囲の人々まで失敗させてしまいました。



かくし絵

ハート、十字架、針、ものさし、コンピュータのマウス
骨、スプーン、やじるし、にんじん、スイカ、
バトミントンのはね

火曜日

13

きょうのみことば

使徒 3:1~15

ペテロは、ヨハネとともにその男を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。男は何かもらえると思って、ふたりに目を注いだ。すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言って、(4-6)

目を大きくあけて

伝道の門を見よう

終わりも、始まりもなくずっと続く図形を「メビウスの帯」と言います。そして、人々は終わったようなのに、もう一度、はじまる問題をたどるときに使います。世の中は、終わりがなく繰り返す問題の中に陥っています。しかし、神様は、解決の門を開けてくださっています。

1. 伝道の門を見たペテロとヨハネ

神殿の美しい門の前で足のなえた人がもの乞いをしていました。ある人は足のなえた人がもの乞いすることができるように、神殿の前までつれてきてくれました。ある人はお金を投げてくれました。しかし、メビウスの帯のように、くりかえす足のなえた人の問題を解決してあげることはできませんでした。「金銀は私にはないが、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって歩きなさい」解決の門を知っていたペテロとヨハネは、大胆に手を差し出しながら話しました。すると足と足首に力が出てきた足のなえた人は、歩いたり走ったりもしました。このことは福音が広がるのに伝道の門になりました。

2. 目を大きく開いて見なければならない伝道の門

足のなえた人に必要だったのは、親切な助けでもお金でもありませんでした。イエス様に会っていのちを得て、のろいから抜け出すことでした。レムナントは、ペテロとヨハネのように、伝道の門を見るべきです。そのためには、神様のみことばに耳を傾けなければなりません。また、みことばを持って祈らなければなりません。そうすれば、神様の時刻表にしたがって伝道の門が開いて、現場の主人公として立つようになります。

私を伝道者として呼んでくださった神様、毎日、祈りの生活を送る伝道者にならせてください。私にあるイエス・キリストを伝えるまことの献身をすることができますように。神様に栄光をささげる正しい信仰で、私を導いてくださるイエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう

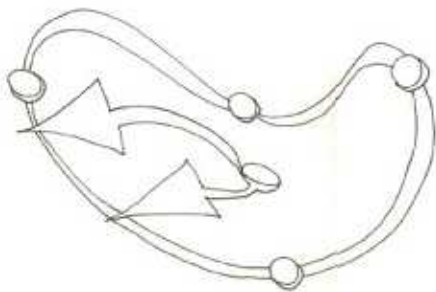
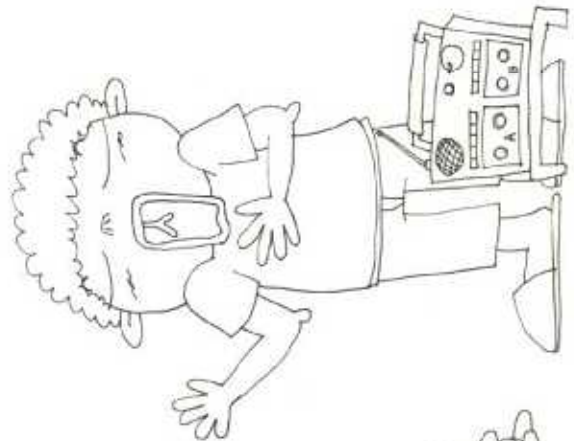
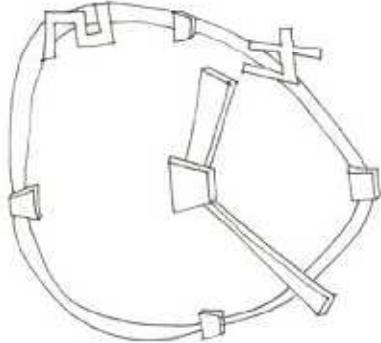
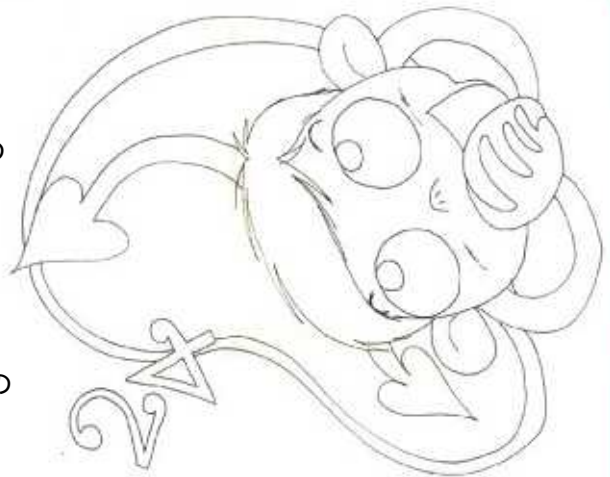


福音の根をどんどんおろすようにさせる時間

RUTC 24

サウル王の心は、福音の体質^{たいしつ}ではないほかの
体質^{たいしつ}が根をおろしていました。ねたみ、
しっと、悪い習慣^{しゅうかん}が人の祝福^{しよく}、霊的な^{れいてき}
祝福^{しよく}をみなのがすようにさせます。
それで、RUTC24を通して福音の根を
どんどんおろさなければなりません。
きれいに色をぬって RUTC 24 にレムナントの
みんなもひとつになりましょう。

* RUTC24 は、福音文化^{ふくいぶんか}をひっぱりまく
レムナント共同体訓練場^{れむなんとどうたいくんれんじょう} (RUTC) をおいて
みんながいっしょに祈り^{いのり}で参加^{さんか}する運動^{うんどう}です。





水曜日

14

きょうのみことば

出 2:17

あなたには、わたしの
ほかに、ほかの神々が
あってはならない。

かみがみ

ほかの神々があってはならない

神様は**聖書**のあちこちで、「ほかの神々に任せてはならない」ときびしくおっしゃいます。なぜ、そのようにきびしく、くり返しておっしゃるのでしょうか。人は、**悪霊**や**サタン**に任ざると、ほろびてしまうからです。神様は、神様の子どもが**悪魔**にだまされることを願っておられません。

1. この世の大きな問題を作りだすサタン

サタンは、人間が神様を離れるようにだまします(創世記3章)。神様を離れて、**悪霊**に任ざって生きるようにだまします(創世記6章)。神様に立ち向かい、神様をばかにするようにさせます(創世記11章)。サタンの誘惑にだまされた人間は、不幸とのろい、滅びを受けるしかありません。

2. 聖霊で答えられる神様

サタンがたとえ、だまして誘惑しても、イエス様のお名前**で**祈れば、完全に縛られて離れていくしかありません。レムナントのみんなは、イエス様のお名前**で**祈りはじめてみてください。イエス様のお名前**で**祈ればサタンの勢力が崩れます。また、**聖霊**様が満たして働いてくださいます。**聖霊**様は、びっくりするほどの力ですべての出会いと事件を通して、細かく答えてくださいます。

3. サタンの誘惑なのか知らずにだまされる人々

神様が願っておられることが一つあります。サタンの誘惑に落ちて、神様に会えず、不幸とのろいの中で生きる人々に、「キリストであるイエス様を信じれば、これら全て問題から解放されるよ!」と、伝えることを望んでおられます。このことを頼むために、まず私たちを救われたのです。

神様の恵みでサタンの誘惑から出て、神様の子どもに呼んでくださったことを感謝します。この喜びをひとりで感じているのではなく、この世の人々に伝える伝道者として生きます。私を伝道者として呼んでくださったイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

✪ 定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう



彼はその場を離れて、ユダヤ人を訪ねて行って、自分を直して下さった方はイエス様だと話しました。ユダヤ人たちは、安息日に人を置いたとイエス様を訪ねてきて問い詰めました。イエス様が彼らにおっしゃいます。

「わたしの父は、今まで働いておられるので、わたしも働くのです」

この言葉聞いたユダヤ人たちは、神様を自分の父と呼びながら、神様と自分を同等に思うイエス様がとてもいやでした。それで、殺したくなったのです。

しかし、イエス様は、大胆に父なる神様がイエス様にくださった権威について彼らに語られました。しかし、だが彼らは信じなかったのです。イエス様は彼らに最後におっしゃいました。

「モーセがわたしについて記録したが、モーセの書を信じないのに、どうしてわたしの話を信じるだろうか」

彼らは頭をしきりに横に振りながら、その場を離れました。



ベテスダの池で 38年も 病氣だった人をいやされたイエス様

ユダヤ人の祭りがありました。それで、イエス様は、エルサレムに上られました。エルサレムには「羊の門」の近くに回廊が五つある池がありました。父々はその池を「ベテスダ」と呼びました。そこには多くの病人が横になっていました。天使が時々、羊の門に降りてきて、水を動かす時に、一番最初に入っていた人は、どんなに病氣であつても、みないやされるといふうわさがあつたためです。

そこに38年の間、病氣になっていた一人の男の人がいました。

イエス様はその男の人が横になっているのを見て、彼がとても長い間、病氣になつていて、彼のどこかに行つて聞かれました。

「よくなりたいたいのか」



病氣の人が答えました。

「先生、水が動き始める時、私を池の中に入れてくれる人がなくて、他の人が私より先に水の中に入ります」

イエスは病氣の人におっしゃいました。

「起きて、床を取り上げて歩きなさい」

すると、その人がすぐには置かって、床を取り上げて歩いていきました。38年も病人だった人を置したその日は、まさに安息日でした。



2



ユダヤ人たちは、病氣がよくなった人を訪れて話しました。

「今日は安息日なのに、あなたが寝床を持って歩いたのは、律法を破ったことです」

「私を置して下さった方が、私に『床を取り上げて歩きなさい』と言われました」

「その人はだれですか」

ユダヤ人が尋ねました。しかし、彼はわかりませんでした。ペテラスの池には多くの人がいて、イエスは彼を置した後、すでに群衆の中に消えてしまっていたためです。

少ししてから、イエスは彼に神殿の屋で会うようになりました。イエスが「見なさい。あなたはよくなりました。もっと楽なことにならないように、再び罪を犯してはなりません」と言われました。

3

木曜日

15

きょうのみことば

ローマ 8:18-25

今の時のいろいろの苦しみは
将来 私たちに啓示され
ようとしている栄光に
比べれば、取るに足りない
ものと私は考えます。
(18)

くなん えいこう 苦難のあとにくるきらびやかな栄光

ふらふらする自転車とどんなに走ってもびくともしない自転車が
あります。どちらの自転車に乗りますか。いくら走ってもびくとも
しない自転車に乗るでしょう。神様も困難がきた時、不平不満、
つぶやきを言いながら、ふらふらする人よりは、堂々と勝ち抜く
人を用いてくださいます。

1. 真の力を受けましょう

イエスを信じない人は「恐れるこわい霊」がともにいます。し
かし、救われた人は、神様の霊である「聖霊様」がともにおられ
ます。これが真の力なのです。神様の子どもは、神様が守られる
から、苦難がきても絶対にほろびません。むしろ、苦難の中で答
えを受けて周囲の友だちを生かします。

2. 真の希望があります

苦難がやってきたのですか。前がまっくらでどのようにすべきか
分からないのでしょうか。朝がくる前、明け方の空は一番まっく
らなように、神様の栄光がやってくる時間なのでまっくらなので
す。がっかりせずに、真の希望を持ちましょう。神様が答えられ
る時刻表があります。それぞれ、その時刻表がちがうから、友だ
ちと比較する必要はありません。ただ真の希望を持って、信仰で待
てば良いのです。しかし、サタンはがっかりさせ、絶望、失望感と
いう贈り物を持ってきます。この時、イエス様のお名前を祈って
みましょう。サタンはびくともできなくて、逃げてしまいます。
神様はレムナントが神様がくださった力と信仰と希望を持って
勝利するレムナントのモデルになることを望んでおられます。

神様、今までふらふらしている自転車のように、つぶやいて、不平不満を言っていましたもう、真の力を持って、神様の時刻表を真の希望を持って待つレムナントとして生きています。私をレムナントのモデルに呼んでくださったイエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

✪ 定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう



金曜日

16

きょうのみことば

使徒 5:42

そして、毎日、皆や
家々で教え、イエスが
キリストであることを
宣べ伝え続けた。

毎日キャンプを準備しよう

学校に行くと、授業の時間割がはってあります。その時間割どおりに準備する物を持って行って、授業を受けます。しかし、授業の時間割は、学年ごとにみんな違います。神様は、レムナントにそれぞれ違う時刻表を持っておられます。ですから、他の友だちと比べることや、ねたむ必要はありません。神様は、神様の時刻表に従って、導いて働いてくださいます。

1. 毎日、伝道を準備してみよう

伝道にも時刻表があります。神様は伝道を心で準備して、行動で実践するレムナントをほほえみながら見ておられます。さあ、これから伝道する友だちの名前を書いた「伝道図表」、その友だちにあげたい「伝道資料」、伝道する友だちに福音をどのように伝えるのか考えてみる「伝道企画」を定刻の祈りの時ごとにしてみよう。神様から来る大きい答えを味わうでしょう。

2. 毎日スケジュールをチェックしてみよう

神様の救いの計画の中に、救われる友だちがすでに予定されています。そして、いつ救われるかも、すでに計画されています。しかし、私たちは、だれが救われるか、いつ救われるのかわかりません。レムナントのみなさん、一日のスケジュールをたてる時、今日、だれに会うのか一度考えてみてください。今日、その人が神様が備えておかれた救いの対象者かもしれません。それなら、伝道資料を準備しないわけにはいかないでしょう。今日一日、スケジュールの中で伝道の美を味わうように願います。

神様の恵みで救ってくださって、伝道するレムナントとして呼んでくださって感謝します。私
が受けた尊い救いの祝福を他の友だちにも伝えることができるように知恵をください。生きておら
れるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう





出 3:15 神はさらにモーセに仰せられた。「イスラエル人に
言え。あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、
ヤコブの神、主が、私をあなたがたのところに遣わされた、
と言え。これが永遠にわたしの名、これが代々にわたって
わたしの呼び名である。

ヤーウェ

Jehovah

ヤーウェという名は「自ら存在する」「存在するようになる」という意味です。
いいかえるなら、ヤーウェは、この世のだれにも頼らない唯一のまことの
存在者で、あらゆる物事の根源になる神だということです。そして
ヤーウェは、傷が一つもなく、永遠で、約束されたことは必ず守られる
方です。それだけではなく、すべての力の所有者で、その心が喜ばれる
みこころどおりに、全てのものをなしとげながら、自ら選択される方です。
それで、ヤーウェが私たちの神様であるかぎり、私たちは絶対にゆれる
理由がありません。私たちがゆれるとしても、ヤーウェの神様は
決してゆれたり、変わったりしません。なぜでしょうか。自ら存在して
契約を守る神様であるからです。

もう不平、不満、いらいら、ねたみ、しつとから
出てきて、私に向かったすばらしい計画を持って
成就されていくヤーウェの神様を味わいましょう。





17日(土)

いの 祈りの答えを

たいけん 体験しよう

月曜の朝、カツミは学校に向かってトボトボと歩いていた。

「カツミちゃん！」

遠くから、だれかがカツミを呼んだ。ダイジだった。

ダイジは、カツミの教会の友だちだ。もともと、ダイジは、お父さん、お母さんといっしょに寺に通っていた。しかし、お父さん、お母さんの反対を押し切って、さっそうと教会に出てくる。カツミの記憶では、ダイジが教会に出て来なかったことは一度もなかったと思う。

「なんだか、力がないように思えるけど、何かあったの？」

カツミは、下を向きながら話した。

「お母さんに、昨日、しかられたの。メッセージのみことばでいっしょに話してみようと(フォーラム、forum)としたのに、みことばが一つも思い出せなかったの」

「そう。それじゃ、今日、ぼくといっしょに「ミッションホーム」に行こうよ」

「そこに行ったら、なにかもらえるの？」

「みことばどおりフォーラムして、実際的な祈りの答えを体験できるようになるよ」

カツミは、ダイジのことばがとてうれしく聞こえた。それで「行く！」と答えた。

カツミは、ダイジといっしょに、学校の前のミッションホームに行った。

教会の先生は、日曜のメッセージのみことばをもう一度、整理してくださった。

「あ、このみことばが、このみことばだったんだ」

カツミは、自分が書いておいた<子どもの祈りの手帳>を広げてみながらうなずいた。

そして、フォーラムの時間になった。ダイジのフォーラムの番だった。

「昨日、礼拝をみな終えて家に帰ったら、お父さんが、ぼくを呼びました。

お父さんは、お坊さんにあいさつして、ろうそくをつけるように言いました。

◆ 定刻祈りの点検：

昼 12 時

教会のために祈りましょう。

夜 9 時

RUTCのために祈りましょう

ぼくは、お父さんがとてもこわいから、何も話せませんでした。でも、偶像におじぎをするのを、もっともきらわれるという昨日のメッセージのみことばをずっと思い出しました。それでぼくは他の部屋に入って祈りました。

『神様、礼拝時間に<ねたむ神様>というタイトルでメッセージされたでしょう。

偶像におじぎをするのを一番きらわれると言われたのではないですか。

ぼくも偶像におじぎをしたくないけれど、お父さんがこわくておじぎをしなければならぬようです。助けてください。』

ところが、突然、外でお母さんが『雨がどしゃ降りて降ってきたわ!お寺には行けないですよ』と言ったのです。ぼくはぱっと立ちあがって窓の外を見ました。

本当に、雨がすごく降っていました。神様がぼくの祈りに答えてくださるのをもう一度体験しました」

カツミは、ダイジをじろじろ見つめた。

「ダイジは、神様と直接会って話すように祈るんだな。私はお母さんの顔色を見るので、だいたい祈っているふりをする時が多いけれど…

私もダイジのように、神様とお話するように祈れるだろうか。

神様、私もそのようなことができるでしょうか。

ダイジのように、神様の前でみことばをにぎって実際に祈って答えられるのですか」

カツミは、胸に手をおいて心の中で話した。

カツミの心の深い所で「もちろん」という

神様の声が聞こえてくるようだった。

